

風のように

甘木教会



主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一

アブラハムは重ねて言った。

創世記18：29

あなたがたは、主キリスト・イエスを受け入れたのですから、キリストに結ばれて歩みなさい。キリストに根を下ろして造り上げられ、教えられたとおりの信仰をしっかりと守って、あふれるばかりに感謝しなさい。

コロサイ2：6-7

そこで、わたしは言うておく。求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。

ルカによる福音書11：9

【説教要旨】

主の祈り

ブラジルにいるときに物を買う時にそれぞれの地域に買いに行かなければなりません。電化製品は、日本でいえば秋葉原というように〇〇地域のアラブ人街という具合です。ここでは日本人は言われる値段通り買うから高く売り込んでくる、彼らはけしからんと日系の老人たちはよく言われていました。そこで、商談が始まるのですが日系人はそれが苦手です。

山本七平が「聖書の旅」という本の中で、ベドウィン市に行った筆者が『「値切り合い」という会話』という項で次のように言っています。「もう一つにはすべてが驚くほど高く、値段が少々気違いじみているという。しかし言い値で買うものはないから、三百ドルと言っても実際にはすべてが六十ドルぐらいなのかもしれぬ。長時間の値切り合いはわれわれから見れば非能率的だが、彼らから見れば、他人と親しく口をきく機会であり、その会話を楽しんでいることも否定できない。……………岩山と砂しかない荒涼たる地である。……ベドウィンが何か月かに一度ぐらいはこのベルシバのベドウィン市に来て、わざわざ足の踏み場も精神衛生上必要なことなのであろう。」

「ソドムのための執り成し」のアブラハムと神の値切り合いは、まじめな日本人にとっては、どうも親しみを持ってない物語ですが、ベドウィンの子孫であるアブラハムにとってごく普通なことです。アブラハムと神とない空間をつくり、その中で延々たる『値切り合い』という会話を楽しむのも不思議ではあるまい。おそらく、「値切り合い」は、アブラハムと神の会話であるということです。神との会話、それは祈りです。

イエスさまは、ことあるごとに祈りました。イエスはある所で祈っておられた。ルカによる福音書11:1

十字架にお架かりになる前の「ゲッセマネの祈り」があります。22:42 「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。」 22:44 イエスは苦しみもだえ、いよいよ切に祈られた。汗が血の滴るように地面に落ちた。ルカによる福音書

ここで、「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。」とイエスさまが真剣に神と交渉されているということです。十字架を前にして、一つの見方からすると、こんな重要なきも、神と交渉するイエスさまにユーモアを感じます。苦しみもだえ、いよいよ切に祈られ、汗が血の滴るように地面に落ちたという真剣な祈りの中でもユーモアを感じるのは、「父よ、」と呼びかけるところにあります。イエスさまが弟子に祈り方を教えます。「11:2 そこで、イエスは言われた。『祈るときには、こう言いなさい。父よ、・・・』ルカによる福音書」という主の祈りを教えます。それは私たちが祈る、「主の祈り」と違ってきます。わざわざここで、「父よ、」と始まります。ここでの「父」という言葉は、「父ちゃん」と訳せる、親しみのある言葉であり、ユーモアある言葉です。「父ちゃん」と始まる「主の祈り」は、それは、神との信頼に満ちあふれた関係を私たちに教えてくれています。「値切り合い」の会話が楽しくなるということは、それは深い信頼感の中にあることです。つい、まじめな日本人は、単に値切ろうとするだけ、「ディスカウント、(まけて)」という一言だけになって、真剣さはありますが、ユーモアに欠けています。私たちの祈りは実にまじめですが、まじめさは人間の業です。命がかかっている時にも、「父よ、御心なら」、イエスさまが祈り、弟子に教える時にも「父よ、」と呼びかける神への信頼

こそが祈りです。

このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして天の父は求める者に聖霊を与えてくださる。ルカによる福音書11:13

イエスさまは、じゅうじゅう、私たちが悪い者であることを知っていても、またそうであっても神は、私たちが神の子とし、私たちに必要な良いものを与えてくださるといわれるのです。どんな者のものであっても人の救いを求める神のユーモアです。だから、イエスさまは、「そこで、わたしは言うておく。求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。ルカによる福音書11:9」といわれるのです。神を信頼して、求めること、門を叩くことは神への祈りで、求める時、門をたたくとき神との対話が始まるのです。祈りです。これが、主キリスト・イエスを受け入れるということであり、キリストに結ばれて歩むことです。ブラジル朝拝会では、参加者が多く、一人ひとりが順番に祈るのでなく、各自が一斉に祈り、蟬の合唱のように祈りがなっています。終わってユーモアをお持ちの聖公会の大キャンである司祭が、「みなさんの祈りを聞いて、さぞ、神さまはうるさかったでしょうなあ。」と言われました。「キャンならどう祈るのですか」と司祭は聞かれました。「よろしゅうに。」と祈ると、司祭は第二次大戦のとき、日本人の集会、日本語が禁止、制限されたとき、時代に抗いつつ、礼拝を日本語で続け、信徒を導いていきました。そういう苦勞をした結果、祈り言葉は、「よろしゅうに。」、「御心のままに行ってください。」ということになったのです。これこそ、世の力を超える「天の父は求める者に聖霊を与えてくださる。」という聖霊、神の力をいただけるのです。祈りほど、私たちの不安を取り除き、希望を与えてくれるものはありません。イエスさまが私たちの罪のために十字架にお架かりになる前のゲッセマネの祈りにおいて、神に勇気づけられ、心からの信頼をもって、心開かれ、「わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。」というお姿を私たちに与えられます。たとえ現実が厳しくても、神に求め、門をたたき、「よろしゅうに」と神に信頼して祈りつづけましょう。

牧師室の小窓からのぞいてみると



今、世の中の動きにうんざりしていて、すべてを捨てて逃げ出したい。そんな気持ちで、「四国遍路」という本を読んでいると共感するところが多い。

「修験者は、定住する農民に対してはいえはぐれもので、四国遍路の道は、そういうはぐれものたちの足で踏み固められていったのだ。……はぐれるは『連れを見失う』、「離れ離れになる」の意味だが、そこに自分の意思が加わると「群れから離れる」、「群れを避けて独りになる」の意味になる。それは多くの場合、静かな勇気を必要とする行為だ。」

今の時代、はぐれようとするとき「静かな勇気」どころか「強い勇気」が必要な時代。でも、そろそろはぐれても良い歳かもしれない。「イエスは祈るために独りで退かれた」とある。

園長・瞑想？迷走記



年長の一泊キャンプがあった。暑さ、大雨の中でのキャンプだったが、楽しそうに帰って行く子どもたちにホッとしていた。

発達特質の子ども二人がいて、環境の違うなかではたして一泊できるかと危惧していたが、その危惧を吹き飛ばすように元気に帰って行った。その一人の T さんのお母さんが一晩中、待機していますからいつでも呼び出してくださいと言われて、協力に感謝していた。担任が「大丈夫でしたよ」と伝えると、「一晩中、待機していますと言いましたが、寝てしまいました」と正直に言われたということを担任が私に伝えてくれた。この言葉は、幼稚園を信頼してこそ言える言葉と感じ、誉め言葉と思った。信頼されるまで、担任を含め、副担任、他の先生、牧師先生の働きがあったからだと思う。

終礼が終わり、先生方が帰宅するとき、担任が「立てない、このままでいようかな」と一言、色々と準備し、キャンプの責任が取れた時の充実した言葉かもしれない。本当にご苦労様でした。園長の出来る事などそんなにない。職員みんなが、元気に帰って行ったのは嬉しい限りである。全員を送り出し私も力をいただき帰路についた。

日毎の糧

聖書：主は高くいましても／低くされている者を見ておられます。遠くにいましても／傲慢な者を知っておられます。

詩編138：6



ルターの言葉から

福音に何も失うものはない。それゆえ福音にすべてを賭けなさい。
『卓上語録』M.ルター著、植田兼義訳、教文館

低き者

「神の視座は、本詩において地上の王たちが讃えるヤハウエの偉大さは、高き存在でありながら、「低き者」に眼を留め、『高き者を遠くから知っている』とある。(6節)。最後の行には、『低き者』と『高き者』が並べるとによって、ヤハウエは高ぶる者を低くし、低みにある者を高める神あることを暗に表明しているのであろう。」①弱小のイスラエルの民を苦しめたアッシリア、バビロニア帝国は滅びていったが、弱小の民、イスラエルは残った。「信仰者たちはこうした歴史の背後に、『低き者』に眼を注ぎ、これを高め、自らの力を誇る『高き者』を低くする神ヤハウエの意思をみとったのである。そして、『地の王すべて』がそのことを認め、神ヤハウエに帰依する時代の到来を待ち望んだ。こうして、古代イスラエルの信仰者たちは、バビロニア捕囚期以降、彼らの民族神ヤハウエを万物の創造神にして、人類の全歴史を差配する唯一絶対の神として宣揚していく。しかも、その唯一神ヤハウエの偉大さは、すべてを超越した高き存在にではなく、砕かれて、小さく、貧しくされた『低き者』に眼を注ぐことにおかれていたのである。それが旧約聖書における唯一神信仰の逆説的特色である。・・・旧約聖書のこのような神観が『小さき者の神』としてナザレのイエスに引き継がれてゆくことはいうまでもない。」②

引用文献：①②詩編の思想と信仰VI

月本照男 新教出版

祈り：小さき、低き者に目を注いでくださる神と共に歩めますように。

甘木通信

「〈ほどこす〉という動詞がいままではあまり好きになれなかった。……しかし、へんろ道を歩き続けているうちに、少しばかり考えが変わってきた。この動詞には、もっと別の、のびやかな意味があるということが分かってきた。自分の飲料を割いてコーヒーをお接待してくれたおじさんのような人々から、いままで、どれほどたくさのほどこしを受けてきたことだろう。……………」



〈ほどこす〉には『広い範囲で行き渡らせる』『あまねく及ぼす』の意味があり、そこにこそ、この動詞の本来の姿があるように思う。そこには思いやりがある。恩に着せるとか、あわれみをかけて優越感を味わうとか、そういう類のものではない。ほどこすとは恵みを与えることだ。では〈恵む〉とはなんだろうか。恵は〈めぐし〉が動詞化したものだ、めぐしは愛であり、いとおしく思うところだ。恵には思いやり、利他のところ、慈愛のころがある。やがて、そもそも四国のお遍路は〈ほどこす〉〈恵む〉という動詞によって成り立ってきたのだ、というきわめて大切なことに思いが進む。……お接待の背後には、施与によって自分もご利益を得られるという信仰があったろう。…お接待にこめられたころの中心には、思いやりのころ、利他のころがある。……〈ほどこす〉行為を受ける側もまた、〈ほどこす〉側の喜びをすなおにいただくとき、そこに血の通った出会いがある。お遍路では、ほどこしを受ける場そのものが、大切な修行の機会になる。（「四国遍路」辰濃和男 岩波新書）

良きサマリア人もお接待したにすぎないと思った。遍路、巡礼の旅に出たくなった。

(甘木日記)土) 甘木教会へ。「キリスト教講座」で典礼の仕事について話す。典礼は教会の宣教、顔である。日) 大雨の後の朝は快晴。いつものように掃除、礼拝。妻と信徒さんは熊本の集会へ。月) 休みの幼稚園の掃除、雨の後の後片付け。火) 四国遍路」を読み終える。幼稚園で仕事をして、いつもより2時間早く東京への機内。水) 朝から羽村幼稚園の管理者会議。午後から他園の園長、理事長の訪問を受ける。最終便で福岡に。「私が出会った人々—神の庭にて」という随筆を読み終える。木) 松崎保育園、甘木教会へ。金) プランタの花に土を加えて成長を守る。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。ぐちらない聖人（牧師）もいますが。

土）甘木教会へ。車中で「四国遍路」を読む。田んぼの緑の美しさに目がい。綺麗だと思った瞬間、妻が「田んぼの緑、綺麗ね」と声をかけてくる。「キリスト教講座一典礼の仕事」について話す。時代とともに変化している典礼の姿は時代を映す。激しい雨の久留米の幼稚園が気になるが幸い職員と連絡が取れて幼稚園は大丈夫だということで安心した。昼は羽村幼稚園の事務作業。寝る前に「四国遍路」を読む。日）大雨の後の朝、いつものように庭の掃除、教会の前の道路の掃除、掃除は一心不乱でき、祈りつつ瞑想のとき、余計のことを考えると履き目が美しくない。礼拝後、私は、信徒さんが気遣ってくださり久留米に送っていただく。家内は熊本への集会へ。夜、信徒さんに送られて帰ってきた教会兼任の牧師が多いのか午後からの集会は牧師さんらの出席が少なかったと家内から聞く。月）参議院選挙の結果、予想通り。さて、日本はどこを柱として進んでいくのだろうか。幼稚園は休みだが、花の水遣りに行くと気になるところが目に入り、掃除、整理をしていると汗だくだ。昼めしを食い、「四国遍路」を読みだす。ブラジル時代、一緒に祈りを合わせた他教団のI牧師の誕生日で電話をする。完全引退を考えている。「よくここまで、お互い」



にきたよね。もう何も思い残すことはない」と二人で話す。するとブラジル時代に一緒に住んでいたF君からブラジル旅行の写真が送られてくる。不思議なこと。教会も今年で伝道60年、パイプオルガンを製作中という。火）夏休みの朝、「四国遍路」の本を読み終え、幼稚園に向かう。雨で流れた砂を溝からかきだし、ハチの巣を取り除き、結構、ハードな一日から始まり、18時40分の飛行機で東京に向かう。機内で「私が出会った人々―神の庭にて」という随筆を読む。その中で幾人か同じ方と私も出会っていた。東京に着き、知人らと少し旧交を温める。この人たちも私が出会った人だから、愛おしい時間だった。水）羽村幼稚園の管理者会議、久しぶりに議事録をその場で作っていく。その日に議事録を作り終えて発信する。まだ、少しは頭は動かし。今日は朝も夜も蕎麦を食べるが私の口には合わなかった。最終便で、0時前に福岡に着く。木）早朝、久留米の庭掃除、次は松崎保育園の聖書の学び、礼拝、猛暑で甘木の教会の移動は車で送っていただく。ありがたい。金）今日も酷暑の中、プランタに土を加えて水分を守る。気候変動は園芸にも影響を与えてきている。